



インフォメーション 日本蜘蛛学会第34回大会 (鹿児島)のお知らせ

日本蜘蛛学会の第34回大会は2002年8月23日(金)から25日(日)まで、クモ合戦の町、加治木町の加音ホール(〒899-5241 鹿児島県始良郡加治木町木田 5348-185)を会場として開催される。また、大会と同時並行して、加治木町、クモ合戦保存会、日本蜘蛛学会の三者の共催で、クモフェスタが開催される。

日程(下線はクモフェスタの行事)

23日(金)親子クモ観察会、桂あやめトークショー(交渉中)

24日(土)講演、総会、市民シンポ(クモの文化論)、レセプション

25日(日)講演

*この期間、展示室とエントランスホールでクモのアートやグッズの展示が行われる。

問い合わせ先

〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1

立命館大学工学部生物地球科学研究室

吉田 真

Tel: 077-561-2660

Fax: 077-561-2661

e-mail: myoshida@se.ritsumei.ac.jp



学会奨励賞は渡部 健氏に決まる

日本蜘蛛学会奨励賞の第2回の受賞者は渡部 健氏に決定した。同氏は京都大学理学部に籍を置き、動物生態学を専攻されている。

渡部氏の研究成果は、学会大会のシンポジウムや講演を通してすでにご存じの方も多いただろう。カタハリウズグモの作る2つのタイプの隠れ帯が餌条件で変化することを実験的に明らかにし、このクモの餌捕獲の機能



が2型間でどのように異なるのか。また野外で餌環境が激しく変動する中で生活するクモが、このような網構造の可塑性をどのように活かしているかを解明したのである。これ

らの研究成果はすでに国際誌に発表され世界中のクモ類の生態研究者から高い評価を受けている。

(新海 明)



同好会情報

ここでは日本各地にあるクモ同好会で発行されている定期刊行物の内容、採集会や講演会(総会・例会)の日程などを紹介する。興味を持たれた方は入会したり、行事に参加されてはいかがだろうか。

和歌山クモの会(会長:米田 宏)

会報「和歌山クモの会会報」を年1回発行。総会・観察会を年1回実施。

採集観察会および総会は、2002年8月25日(日)に和歌山市加太で実施。

集合場所は、南海加太線加太駅前 詳細は事務局まで

和歌山クモの会会報 No.11(2001.5.25発行)

内容は、遊絲9号を参照のこと。

入会申し込み

〒649-6225 那賀郡岩出町船戸177

米田 宏(事務局)

会費 年1000円

東京蜘蛛談話会(会長:新海栄一)

会報「KISHIDAIA」を年2回、「談話会通信」を年3回発行。採集会年4回・合宿年1回・総会例会などを年2回実施。

今年度の採集会は、千葉県市川市小塚山公

園・堀之内貝塚公園周辺で実施。

2002年5月12日(日)

7月7日(日)

10月13日(日)

2003年2月16日(日)

北総公団線矢切駅 午前10時30分集合。

世話人 加藤輝代子(047-373-3344または090-7012-6458)

合宿は、

2002年7月20日(土)~22日(月)

栃木県那須周辺

宿舎:ペンション「山のわが家」

栃木県那須郡那須町大字高久丙3248

費用:9700円(予定,1泊3食つき)

申し込み:224-0006

横浜市都筑区荏田東2-4-8

萩本房枝

Tel(Fax)045-942-7572

例会は、

2002年12月1日(日)の予定。



東京蜘蛛談話会2002年度例会総会の様子

KISHIDAIA 82号(2002.5.発行予定)

新井浩司:「蜘蛛喰い蜘蛛」の記録

新井浩司:センショウグモの捕食行動

新海 明:トリノフンダマシ類の造網開始時期

と造網時刻についての記録

DRAG LINES

新海 明：トビジロイソウロウグモによるオオトリノフンダマシからの餌盗み

新海 明：トリノフンダマシ類の破網行動

長崎緑子：クロマルイソウロウグモを秩父（埼玉県）で採集

笹岡文雄：ワスレナグモの新産地

八幡明彦：アオグロハシリグモの色彩多型

八幡明彦：オオジョロウグモの共食い

八幡明彦：ケアシハエトリのクモ捕獲

徳本 洋：ツシマトリノフンダマシ，八丈島で発見される

貞元己良：今年も我が家の庭にゲホウグモ現わる

貞元己良：トリノフンダマシ VS ゲホウグモ

平松毅久・嶋田順一：埼玉県新記録種

谷川明男：日本産クモ類目録(2000年版)補遺 2

新海 明・徳本 洋：東京蜘蛛談話会 2001 年度合宿報告 富山県立山周辺のクモ

谷川明男：西表島のクモ類採集記録 VI

入会申し込み

〒229-0038 相模原市星が丘 1-5-5

今井正巳（事務局）

Tel 042-755-3086

会費 年 3800 円（学生 2000 円）

関西クモ研究会（会長：山野忠清）

会報「くものいと」を年 2 回発行 .採集会・研究会例会などを年数回実施 .

採集会は，京都府八幡市で実施の予定 .

2002 年 6 月 2 日（日）

9 月 22 日（日）



関西クモ研究会 2001 年度例会の様子

例会は，2002 年 12 月 22 日（日）に園田学園女子大学または四天王寺高校で開催の予定 .

くものいと 31 号（2002.2.28 発行）

船曳和代：一大ネットワーク展開催：自然，文化，技術における網構造の魅惑と美

< 寄稿 >

西川喜朗：未婚のジグモのその後

徳本 洋：水田近くでブルーニングしてきたクモ

松田まゆみ：サハリン紀行

吉田 真：タニマノドヨウグモとオオシロカネグモの生活史

加村隆英：エクアドルに行ってきた！

須賀瑛文：都心部の公園・城址・神社などで減少したクモ～名古屋市の現状～

清水裕行：兵庫県のセアカゴケグモ通信 2001 年版

< フィールド紹介 >

渡部 健：京大理学部附属植物園

< 自然観察会シリーズ >

本庄四郎：夜の自然観察，やっぱり主役はクモ

関西クモ研究会 2001 年度例会の記録

西川喜朗：クモ関係簡体字早見表
 <クモリスト>
 西川喜朗：キノボリトタテグモの採集記録
 田中穂積：京都（数ヶ所）のクモ
 田中穂積：兵庫県（数ヶ所）の採集記録の訂
 正
 西川喜朗：京都府のクモの採集記録
 赤松史憲：関西クモ研究会奈良市内採集会(2
 001.6.10)の報告
 清水裕行：奈良市採集会で採れたクモ(200
 1.9.9)
 船曳和代：兵庫県穴栗郡安富町関のクモ
 池田勇介：勇介美術館
 梶元敏也：インターネットのクモ情報
 清水裕行：私たちの研究仲間
 会費納入のお願い/ちょっとニュース(吉
 田 真)
 仲程悦子：クモの糸に彩る山原

入会申し込み

〒567-8502 茨木市西安威 2-1-15

追手門学院大学生物学研究室内

関西クモ研究会

Tel 0726-41-9555 (西川研)

0726-41-9550 (加村研)

Fax 0726-41-9432 (大学教務課)

会費 年 1000 円

中部蜘蛛懇談会(会長：緒方清人)

会報「蜘蛛」を年 1 回、「まどい」を年 3
 回発行。採集会を年 4 回、合宿を年 1 回、

総会・研究会を年 1 回実施。

採集観察会は、

2002 年 6 月 2 日 豊田市自然観察の森

担当者 緒方清人

センター前 9:30 ,あるいは名鉄本線知立駅
 8:30 集合

2002 年 10 月 20 日 宮路山

担当者 板倉泰弘

合宿は、2002 年 7 月 27 日(土)～28 日
 (日) 海上の森と瀬戸定光寺

宿舍：愛知県労働者研修センター

費用：8000～9000 円(予定)

申し込み：柴田良成 Tel&Fax052-522-1920

総会・研究会は、2003 年 2 月 11 日(火・
 建国記念日)に実施。

蜘蛛(KUMO)34号(2001.6.30発行)

内容は、遊絲9号を参照のこと。



中部蜘蛛懇談会 2001 年度総会研究会

入会申し込み

〒444-0075 岡崎市伊賀町字 4 丁目 62-3

板倉泰弘(事務局)

Tel 0564-28-5857

E-mail: yasuhi@deluxe.ocn.ne.jp

会費(2002 年度より)

正会員 年 3000 円(高校生以下 1000 円)

準会員 「まどい」のみ 1000 円



三重クモ談話会（会長：橋本理市）

会報「しのびぐも」を年 1 回発行 . 採集会・
合宿・例会などを年数回実施 .

今年度の採集観察会は、一志郡嬉野町一帯
にて実施 .

2002 年 5 月 12 日（日）

9 月 22 日（日）

11 月 10 日（日）

近鉄「伊勢中川」駅前，午前 9 時集合 . 大雨
以外は決行 .

参加希望者は事務局まで連絡のこと .

夏の採集観察会は，7 月 27 日（土）～ 28
日（日） 中部蜘蛛懇談会との合同開催 . 詳
細は未定 .

総会兼同定学習会，懇親会は，2003 年 2
月 22 日（土）～ 23 日（日）詳細は後日連絡 .

しのびぐも 29 号（2002.3.31 発行）

熊田憲一：伊賀町山畑のクモ

熊田憲一：三重で採集したクモ追加

熊田憲一：三重県に来て始めて採集したサン
ロウドヨウグモ

新海 明：アシナガカニグモがいっぱい

貝發憲治：津市の偕楽公園にキシノウエトク

テグモの住居を多数発見

太田定浩：天春明吉氏採集の標本をみる

斎藤慎一郎：2001 年春の採集観察会メモ

三重クモ談話会活動報告

飯南郡飯高町のクモ目録とまとめ

入会申し込み

〒515-0044 三重県松阪市久保町 1843-
157

貝發憲治（事務局）

Tel (Fax) 0598-29-6427

会費 年 3000 円（2002 年度より）

関西クモゼミ

1～2 ヶ月に 1 回，滋賀県草津市の立命館
大学で開催 . 会費などなく誰でも参加できる .

連絡先

立命館大学理工学部生物地球科学研究室

吉田 真 077-561-2660

E-mail:myoshida@se.ritsume.ac.jp

東京クモゼミ

毎月 1 回，第 1 日曜日に千葉県市川市の加
藤宅で開催 . 会費などなく誰でも参加できる .

連絡先 新海 明 0426-79-3728

または，加藤輝代子 047-373-3344

言いたい！聞きたい！



「イナズマ」か「イナツマ」か
和名の表記について

新海 明

県別のクモ類リストをまとめはじめた . す
でにさまざまな形で発表されている 20 余り
の都道府県のクモリストにある和名をただ
ひたすら打ち込んでいたところ，「あれ？」
と思うものに何度か行き当たった . 「ムナ」
グロヒメグモと「ムネ」グロヒメグモ，「ム
ナ」グロサラグモと「ムネ」グロサラグモな
どである . 前者は *Theridion pinastri* で，後
者は *Neolinyphia nigripsectoides* のこと
である .

さて， クロボシイソウウロウグモ， タン
バグモ， ササノハハエトリ， ユノハマゴ

ミグモ, コガネマル, これらのクモの正体をご存じのかたは一体どれだけいるだろうか。[正解は次ページ]

新海栄一氏は、「クモの名称 - 昔の名前今の名前 - 」(新海 1969)のなかで,かつて使われていた和名と現在使われている和名を対比した。日本のクモ学の草創期ではクモ学者はかなり自由気ままに和名を使用していたようだ。この混乱を收拾したのが八木沼健夫氏の原色日本蜘蛛類大図鑑の出版だったようだ(八木沼 1960)。これ以降はこの図鑑に用いられたものが標準和名として定着していったと思われる。

この時期が和名の統一整理の第一段階とすれば,ここで提案する和名の統一整理は第二段階というべきものかも知れない。ただし,その規模たるや,第一段階とは比べものにならないほどの微調整である。しかし,各地で発表されたリストを比較すると混乱はかなりのものである。それなりの信念をもって使用していると推測できるものから,著者自身あまり気にせずに使っていると思われるものまでさまざまである。学名さえしっかりしていれば和名などどうでもよいではないかという意見もあるかも知れない。しかし,善し悪しを別として各地のリストには和名だけを列記したのもも結構みられるのだ。50年 100年後の研究者にいらぬ混乱をさせないようにしたい。現在使用されているクモの和名について,気付いたかぎりの問題点を指摘し整理してみたい。

検討の対象とした文献は,新海(1969),大河内・川端(1978),久米(1979),水沢(1981),菊屋(1985),林(1985),徳本(1990),八木沼ほか(1990),吉田哉(19

91),石野田(1992),菅波(1992),小川・寺西(1993),中平(1994),小野ほか(1995),東條(1996),福島(1997),松田(1997),谷川(2000),吉田真(2001)である(発行年順)。これらは,八木沼健夫氏の図鑑が出版されてから発表されたものであり,都道府県別のリストとして代表されるものや日本産のクモ類をまとめたものである。

検討の対象とした種類は,ムナ(ネ)グロヒメグモ *Theridion pinastri*, ムナ(ネ)グロサラグモ *Neolinyphia nigripectoides*, マルズ(ツ)メオニグモ *Araneus semilunaris*, ウズ(ツ)キコモリグモ *Pardosa astrigera*, イナズ(ツ)マクサグモ *Agelena labyrinthica*, イナズ(ツ)マウラシマグモ *Phrurolithus claripes*, イズ(ツ)ツグモ *Anyphea pugil*, イナズ(ツ)マハエトリ *Pseudicius vulpes* の 8 種類で,表記別に文献名を整理し一覧表にまとめた。

(1) ムナかムネか

ムナグロヒメグモとしていたのは 6 件,ムネグロヒメグモとしていたのは 9 件であった。

また,ムナグロサラグモとしたのは 2 件,ムネグロサラグモとしたのは 12 件だった(表 1)。漢字で書いたときの「胸黒」をどう読むかという問題である。私の手元にある「新明解国語辞典第三版」(三省堂)には「胸黒」という用語はなく,単に胸が黒いという意味を言い表わしているにすぎないので,読

前頁の答え	アカイソウロウグモ	
ガザミグモ	アオオビハエトリ	ヨ
ツデゴミグモ	ハンゲツオスナキグモ	

み方は「むなぐろ」でも「むねぐろ」でも良いようだ。ちなみに「むなくそ悪い」は別に「むねくそ悪い」とも言うことがあった(金田一ほか 1986)。サラグモの方は圧倒的に多くの方がムネグロを用いているので問題はなさそうだが、ヒメグモの方では両者が拮抗していた。さらに、多くの方が参考にしていて考えられる「クモの学名と和名」(八木沼ほか 1990)の中には、本文中(p.142)では「ムナグロ(胸黒)ヒメグモ」と説明しているにもかかわらず、付表の日本産クモ類目録(1989)の中ではムネグロヒメグモと表記しているのだ。混乱の原因はこのようなところにもみられる。谷川(2000)による日本産クモ類目録(2000年版)の利用者も多いと考えられる。谷川の和名は基本的には八木沼ほか(1990)を踏襲しており(谷川,私信),この中の和名は八木沼ほか(1990)のリスト部分のものを採用している。私の個人的な思い入れでは「ムナグロヒメグモ」としたいのだが、八木沼ほか(1990)と谷川(2000)の表記が広く行き渡っている可能性が大きいので、今後は「ムネグロヒメグモ」と表記するように提案したい。結局、ヒメグモ・サラグモともに「ムネグロ」と統一して書くことになるので、初心者にはわかりやすくなると思われる。

(2) マルズメかマルヅメか

マルズメオニグモとしていたのが4件、マルヅメオニグモとしていたのが13件だった(表2)。八木沼ほか(1990)によれば「マルヅメ(丸爪)オニグモ」に由来するとのことである。また、使用者のほとんどがマルヅメを採用していたことからマルヅメオニグモと表記したい。

(3) イナズマかイナヅマか

イナズ(ツ)マとつく和名はクサグモ類、ウラシマグモ類、ハエトリグモ類にみられた。イナズマクサグモとしていたのは11件で、イナヅマクサグモとしていたのは1件だけだった。イナズマウラシマグモとしていたのは6件、イナヅマウラシマグモとしていたのは5件とウラシマグモ類では両者は拮抗していた。また、イナズマハエトリは12件、イナヅマハエトリは5件だった(表3)。

この場合は「稲妻」をどう読むかである。古来は「いなづま」だったのかも知れないが、最近の国語辞典では「いなずま」とするのが普通のようなのである(金田一ほか 1986)。ちなみに私の使っているワープロではどちらで打ち込んでも「稲妻」と変換された。今までに多数の方が「イナズマ」を使用しているし、八木沼ほか(1990)でも「イナズマ」を採用していることから、今後はイナズマクサグモ・イナズマウラシマグモ・イナズマハエトリの和名を用いることを提案したい。

(4) ウズキかウヅキか(キクズキかキクヅキか)

これは古語の「卯月」や「菊月」からであるから、ウヅキ・キクヅキ以外になかろうと思いき、当初は調査項目から除外していた。しかし、ウズキ・キクズキを採用している方が若干みられた(表4)。おそらく、使用された方の不注意と思われる。ウヅキコモリグモ・キクヅキコモリグモでよいだろう。

(5) イズツかイツツか

これも前者と同様で古語の「筒井筒」に由来するようなので(八木沼ほか,1990),「イツツ」グモと皆さん使用しているだろうと予想していたが、「イズツ」グモ派が何名かい

た(表5)。しかし、大多数はイツツグモであるので、由来ともども考えあわせてイツツグモとするように提案したい。

結果的には、八木沼ほか(1990)のリスト部分に掲載されている和名をすべて採用したことになる。つまり、ここでの提案に私の独自性はなにもない。では、なぜこのようなものを書いたのかというと、八木沼ほか(1990)が著わされてからも、リスト作成者の和名の使い方に混乱が多くみられたことによる。推察するに大部分の方はここで述べたような和名に対してさして気を付けて使用したわけではないと思う。同一リストにイナズマとイナヅマが混在しているものすらあったからである。このようなものをあえて書くことで、これからは少し注意して和名を使用したいとの私自身の願いと反省を含めたものと理解していただけたら幸いである。

引用文献

- 福嶋彬人 1997. 秋田県の真正蜘蛛類目録. Kishidaia, 72:64-82.
- 林 俊夫 1985. 群馬県の真正クモ類. 群馬県動物誌: 513-541.
- 石野田辰夫 1994. 宮崎のクモ. 宮崎県の生物: 309-318.
- 菊屋奈良義 1985. 大分県下の真正クモ類の Fauna について(1). 小林晶教授退官記念論文集: 41-108.
- 金田一京助・見坊豪紀・金田一春彦・柴田武・山田忠雄 1986. 新明解国語辞典. 1287p. 三省堂.
- 久米忠夫 1979. 静岡県産真正クモ類. 静岡県の生物: 136-143.
- 松田まゆみ 1997. 北海道産クモ類目録. 上士幌町ひがし大雪博物館報告, 19:1-46.
- 水沢正明 1981. 新潟県の真正蜘蛛目録. Heteropoda, 4:8-31.
- 中平 清 1994. 私と生きものたち. 259p. 著者自刊.
- 小川光昭・寺西玉実, 1993. 広島県の真正クモ類. 比和科学博物館研究報告 31: 71 - 121.
- 大河内哲二・川端純夫, 1978. 埼玉県のクモ類. 埼玉県動物誌: 485 - 505.
- 小野展嗣・新海栄一・加藤輝代子, 1995. 福島県のクモ類相. 国立科学博物館専報(28): 113 - 133.
- 新海栄一, 1969. 東京都産真正蜘蛛類. 65 p. 東亜蜘蛛学会.
- 新海栄一, 1969. クモの名称 - 昔の名前今の名前 -. Kishidaia(3):22.
- 菅波洋平, 1992. 茨城のクモ類. 茨城の生物(平成4年度版): 206 - 211.
- 谷川明男, 2000. 日本産クモ類目録(2000年版). Kishidaia(78):79-142.
- 東條 清, 1996. 和歌山県産クモ類目録(1996). 紀州生物(25): 23 - 30.
- 徳本 洋, 1990. 石川県の真正クモ類. 石川の生物: 200 - 207.
- 八木沼健夫, 1960. 原色日本蜘蛛類大図鑑. 保育社.
- 八木沼健夫・平嶋義宏・大熊千代子, 1990. クモの学名と和名. 287 p. 九州大学出版会.
- 吉田 哉, 1991. 山形県陸産淡水産動物目録, クモ目. 大津高編. 山形県動物環境調査会: 80 - 90.
- 吉田 真, 2002. 京都府産クモ類目録. くものいと(30): 20 - 37.

表 1. ムナかムネか

ムナグロヒメグモ	ムネグロヒメグモ
新海 (1969)	水沢 (1981)
石野田 (1992)	徳本 (1990)
菊屋 (1985)	八木沼ほか (1990)
吉田哉 (1991)	菅波 (1992)
小川・寺西 (1993)	小野ほか (1995)
福嶋 (1997)	東條 (1996)
	松田 (1997)
	谷川 (2000)
	吉田真 (2001)
ムナグロサラグモ	ムネグロサラグモ
林 (1985)	大河内・川端 (1978)
徳本 (1990)	久米 (1979)
	菊屋 (1985)
	八木沼ほか (1990)
	石野田 (1992)
	小川・寺西 (1993)
	中平 (1994)
	小野ほか (1995)
	東條 (1996)
	福嶋 (1997)
	谷川 (2000)
	吉田真 (2001)

表 2. マルズメかマルツメか

マルズメ	マルツメ
新海 (1969)	大河内・川端 (1978)
水沢 (1981)	久米 (1979)
吉田哉 (1991)	林 (1985)
菅波 (1992)	徳本 (1990)
	八木沼ほか (1990)
	石野田 (1992)
	中平 (1994)

小野ほか (1995)
 東條 (1996)
 福嶋 (1997)
 松田 (1997)
 谷川 (2000)
 吉田真 (2001)

表 3. イナズマかイナヅマか

イナズマクサグモ	イナヅマクサグモ
新海 (1969)	小野ほか (1995)
大河内・川端 (1978)	
水沢 (1981)	
林 (1985)	
八木沼ほか (1990)	
吉田哉 (1991)	
石野田 (1992)	
小川・寺西 (1993)	
福嶋 (1997)	
松田 (1997)	
谷川 (2000)	
イナズマウラシマグモ	イナヅマウラシマグモ
水沢 (1981)	久米 (1979)
八木沼ほか (1990)	徳本 (1990)
菅波 (1992)	石野田 (1992)
小川・寺西 (1993)	小野ほか (1995)
東條 (1996)	福嶋 (1997)
谷川 (2000)	
イナズマハエトリ	イナヅマハエトリ
大河内・川端 (1978)	久米 (1979)
林 (1985)	水沢 (1981)
徳本 (1990)	菊屋 (1985)
八木沼ほか (1990)	小野ほか (1995)
吉田哉 (1991)	福嶋 (1997)
菅波 (1992)	

石野田 (1992)
 小川・寺西 (1993)
 東條 (1996)
 松田 (1997)
 谷川 (2000)
 吉田真 (2001)

吉田哉 (1991) 小川・寺西 (1993)
 中平 (1994)
 小野ほか (1995)
 東條 (1996)
 福嶋 (1997)
 松田 (1997)
 谷川 (2000)

表 4. ウズキ (キクズキ) か
 ウツキ (キクツキ) か

ウズキ (キクズキ) コモリゲモ	
ウツキ (キクツキ) コモリゲモ	
吉田哉 (1991)	新海 (1969)
石野田 (1992)	大河内・川端 (1978)
	久米 (1979)
	林 (1985)
	菊屋 (1985)
	徳本 (1990)
	八木沼ほか (1990)
	吉田哉 (1991)
	菅波 (1992)
	石野田 (1992)
	小川・寺西 (1993)
	中平 (1994)
	小野ほか (1995)
	東條 (1996)
	福嶋 (1997)
	松田 (1997)
	谷川 (2000)
	吉田真 (2001)

表 5. イズツか イツツか

イズツグモ	イツツグモ
新海 (1969)	八木沼ほか (1990)
水沢 (1981)	菅波 (1992)
菊屋 (1985)	石野田 (1992)

「自然，文化，技術における網構造の
 魅惑と美」展に 12 点の網パネル作品を
 展示

船曳和代

昨年 7 月，ドイツの Thomas Hauer 氏より
 コミュニケーション博物館で企画している「自
 然，文化，技術における網構造物」展に，私の
 網の絵はがきを使わせてくれないかとの申し出
 を受けました．絵はがきは，昨年，南アフリカ
 で行われた国際クモ学会に出席した榎元夫妻に
 託し，会場で展示販売したものを購入した，ス
 イス人からみせてもらったとのことでした．英
 語のほとんどできない私は，カナダ在住の姪
 Guraham Ikumi 氏に仲介役を頼み，何度かメ
 ールの交換を繰り返しました．そして絵はがき
 でなく，元のパネルの展示が実現しました．展
 示の網は，できるだけいろいろな形のものをと
 心がけ，ツリサラグモ，アシナガサラグモ，ア
 シヨレグモ，ヒメグモ，サガオニグモ，ギンメ
 ッキゴミグモ，ゲホウグモ，ジョロウグモ，ア
 オオニグモ，オウギグモ，オナガグモ，ヒラタ
 グモの 12 点を選びました．

展示は 2 月 27 日からすでに始まっています．
 オープニングには 500 名の来場者があり大成功
 とのことです．また展示会に関する新聞記事の
 ほとんどがパネル作品を絶賛しているとのこと，
 またテレビでの特集番組の中でも映し出された

と、嬉しい報告を頂いています。

以下に今回の展示のプロジェクトマネージャーである Thoumas Hauer 氏にその内容を簡単に紹介していただきました。見に行くのはちょっと無理ですが、興味のある方はホームページをのぞいてみてください。

フランクフルト、ベルリン、ハンブルグ、ニュエルンブルグのコミュニケーション博物館で、2月28日から、自然界や人工のすばらしい網構造をテーマにした展示が始まります。訪問者は、9つの展示モジュールを通じて、クモの巣に始まり、最新のインターネットの技術にいたるまで、様々な分野における実際の網構造を、鑑賞・体験することができます。

展示の特徴の一つは、原子やクオークと言った超微細なものから銀河や星雲と言った小宇宙に至るまで、その網目構造の類似性にあります。

展示場に入って頂くと、マルチメディアを駆使した様々なウェブと網がまず皆様を迎えます。次のエリアは、クモの巣や菌糸体のような自然界における網目構造物です。訪問客はここで、たとえば、クモの糸は、地球上で最も強靱な材料の一つであり、この世で最大の生き物は、巨大な菌糸体であるというようなことを学ぶでしょう。また、ここには、日本の船曳和代女史のクモの巣を使ったたぐいまれな芸術作品が展示されており、それは、今回の一連の展示の中でも、ハイライトの一つとなっています。しかし、あらゆる自然の網構造の中でも、最も複雑かつ神秘的なのは、人間の脳であり、そのため、脳神経細胞の機能に関する最新の研究成果を展示しています。この複雑な展示にあたっては、世界的に有名なマックスプランク神経科学研究所にパートナーになって頂いています。

このあと、徐々にテーマは、自然から人工へ

と移っていきます。まず最初に目に付くのが、古代から現代にいたるまでの様々な灌漑施設網で、最新のディスプレイ技術を駆使した、実際の水が流れる“水のカーテン”を配しています。また、別の一角では、様々なインフラ網（ガスパイプライン、送電線、上下水道管）が、いかに近代社会（そして脱工業化社会）の発展と機能に貢献したかを扱っています。ここでは、近代都市の心臓部である水道管や電線を、実際に地下に潜ることなく、アーティストのイラストで見ることができます。その次は、現代の交通網とその問題を扱った展示となっています。交通渋滞の問題はよく知られていますが、交通手段はまた、人々に機会と可能性を提供してくれます。更に、電気通信網もまた、世界の発展に大変重要な役割を果たしており、ここでは、イギリスとアメリカを結んだ世界初の海底ケーブルから、現在膨大な量のデータのやり取りに使われているインターネットまで、様々な通信網が展示されています。

最後の一角では、いわゆる社会組織網、つまり、個人のアイデンティティの根幹をなし、ドイツ福祉国家の基礎である家族や集団構造を扱っ



ています。これらの展示と平行して、ZKM（ドイツのカールズルへにある芸術通信センター）のマルチメディアステーション“Web Of Life”という装置が設置されています。この装置のスクャナーに手を置くと、機械が手のひらの線を読み取って、鮮明な光の織り成すユニークな立体構造を作り出します。その信号を“Web Of Life”のホームページに送ると、誰でも、世界を結ぶ生きた光のネットワークの一部になることができます。この“Web Of Life”のステーションの一つが東京にも設置されることになっています。さらに詳しいことについては、www.weboflife.de をご参照ください。（英語版もあります。）また、本展示の正確な日時については、www.museumsstiftung.de をご参照ください。

トーマス ハウアー（プロジェクト マネージャー） 訳 / Guraham Ikumi



日本各地で採集された、稀産種や分布上の重要種などについての情報を掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

ミズグモ

北海道東利尻町南浜メシヨ口沼 2001年7月16日 堀 繁久

北海道鶴川町汐見湿原 2001年11月1日 多数 外山雅寛

マメイタイセキグモ

千葉県市川市小塚山公園 2002年5月12日 幼体2 新井浩司



発見直後の新井氏

（新海 明・谷川明男）



最近気がついた分類関係の文献

最近発表された日本のクモの分類に関連のある論文をいくつか簡単に紹介する。

: Berry, J.W. & Proszynski, J. 2001. Description of *Hakka*, a new genus of jumping spiders (Araneae, Salticidae) from Hawaii and East Asia. *J. Arachnol.*, 29:201-204. イソハエトリを *Hakka* へ移した。

: Logunov, D. 2000. A redefinition of the genera *Bianor* Peckham & Peckham 1885 and *Harmochirus* Simon 1885, with the establishment of a new genus *Sibianor* gen. n. (Aranei: Salticidae). *Arthropoda Selecta*, 9:221-286. ヤマトツヤハエトリ, クロツヤハエトリ, ナカヒラハエトリ, キレワハエトリを *Sibianor* に移した。

: 小野展嗣・新海栄一, 2001. 自然教育園のクモ類. 自然教育園報告, 33:173-200.

Rhomphaea labiata (Zhu & Song 1991) ヒゲナガヤリグモを日本から新たに記録した。

: Yoshida, H. 2001. A revision of the

Japanese genera and species of the subfamily Theridiinae (Araneae: Theridiidae). Acta Arachnologica, 50:157-181. *Nipponidion okinawense* Yoshida 2001 オキナワヒメグモ, *Keijia maculata* Yoshida 2001 ミナミホシヒメグモ, *Theridula iriomotensis* Yoshida 2001 イリオモテヒメグモモドキを新種として記載. ヤエヤマヒメグモを *Nipponidion* へ転属. タカコヒメグモ, パラギヒメグモ, ヒロハヒメグモ, ユノハマヒメグモ, コケヒメグモ, シモフリヒメグモを *Takayus* へ転属. アカアシヒメグモを *Nesticodes* へ転属. ハイイロヒメグモを *Paidiscura* へ転属. ムナボシヒメグモを *Keijia* に転属. タカネヒメグモを *Rugathodes* へ転属. フタスジヒメグモ, チクニサヤヒメグモを *Neottiura* へ転属, チクニサヤヒメグモの和名はチクニヒメグモに変更. サトヒメグモを *Keijia* へ転属し, 学名を *Keijia mneon* (Bösenberg & Strand 1906)に変更. コガネヒメグモの学名を *Chryssoscutellans* (Thorell 1895)に変更. ギボシヒメグモの学名を *Chryssoscutellans albipes* (S.Saito 1935)に変更.

: Yoshida, H. 2001. The genus *Rhomphaea* (Araneae: Theridiidae) from Japan, with notes on the subfamily Argyrodinae. Acta Arachnologica, 50:183-192. ヤリグモの学名を *Rhomphaea sagana* (Dönitz & Strand 1906)に変更. *Rhomphaea hyrcata* (Logunov & Marusik 1990) タテスジャリグモ, *Rhomphaea tanikawai* Yoshida 2001 タニカワヤリグモを新種として記載した. クロマルイソウロウグモとミヤシタイソウロウグモを *Spheropistha* へ転属, オナガグモを *Ariamnes* へ転属した.

: Kamura, T. 2001. A new genus *Sanitubius* and a revived genus *Kishidaia* of the family Gnaphosidae. Acta Arachnologica, 50:193-200. ナミトンビグモを転属し, *Sanitubius anatolicus* (Kamura 1989)とした. ヨツボシワシグモを転属し, *Kishidaia albimaculata* (S.Saito 1934)とした.

: Matsuda, M. & Ono, H. 2001. A new species of the genus *Ummeliata* (Araneae, Linyphiidae). Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, 27:271-276. *Ummeliata saitoi* Matsuda & Ono 2001 サイトウアカムネグモを新種として記載した.

: 小野展嗣 2002. 「八重山のセアカゴケグモ」と「いわゆるクロゴケグモ」の学名と和名. Orthobula's box, 11:3-6. アカオビゴケグモを *Latrodectus elegans* Thorell 1898 と同定した.

: Ono, H. 2002. New and remarkable spiders of the families Liphistiidae, Argyronetidae, Pisauridae, Theridiidae and Araneidae (Arachnida) from Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, 28:51-60.

Ryuthela iheyana Ono 2002 イヘヤキムラグモ, *Dolomedes yawatai* Ono 2002 イシガキアオグロハシリグモを新種として記載. ミズグモを新亜種 *Argyroneta aquatica japonica* Ono 2002 として記載. コノハセンショウグモの正体がホシミドリヒメグモであることを確認し, ホシミドリヒメグモの学名を *Chryssoscutellans foliata* (L.Koch 1878)とした. フタスジオニグモの正体がコケオニグモであることを確認し, コケオニグモの学名を *Araneus seminiger* (L.Koch 1878)とした. ホシオニグモの正体がツノオニグモであることを確認し, ツノオニグ

モの学名を *Araneus stella* (Karsch 1879) とした。

(谷川明男)



ギャラリー



Micrathena clypeata (Walckenaer
1805)

エクアドルにて撮影。(谷川明男)

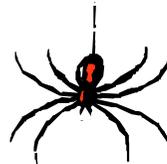
編集後記

前号で学会からの補助金が増額されそうだと書いたが、やはり財政事情が許さないと
の通知をいただいた。あきらめるしかない。
日本の各地の同好会に参加した折々に遊絲
への寄付を募る旅を続けるしかないようだ。
しかし、それらの集会で寄せられる義援金で
の声援にはいつも頭が下がる思いである。こ
れら陰からささえてくださる方々のためにも
より一層充実した内容のあるものにした
いと考えている。

原稿がなければ、作るしかないと決意はし
ているが、原稿の方のご協力もいただければ
幸いである。どのような些細な記事でも構わ

ないので、投稿を重ねてお願いしたい。

(新海 明)



原稿送付先

〒192-0532 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mail では dp7a-tknw@j.asahi-net.or.jp
(谷川明男) まで

発行は、年 2 回 (5 月, 11 月) の予定。締切
は発行月の前月末日です。

日本蜘蛛学会

入退会は

庶務幹事

305-8604 つくば市観音台 3-1-3

農業環境技術研究所昆虫グループ内

田中幸一

Tel 0298-38-8253 (Fax 0298-38-8199)

E-mail: tanaka@nissui.affrc.go.jp

会費の問い合わせ及び住所変更は

会計幹事

170-0004 豊島区北大塚 3-12-24

笹岡文雄

E-mail: spydm@big.or.jp

Tel 03-3918-1945

年会費 正会員 7000 円 (学生は 5000 円)

郵便振替口座 00970-3-46745

ホームページ: <http://www.asahi-net.or.jp/~hi2h-ikd/asjapan/index.htm>

遊絲 第 10 号

2002 年 5 月 25 日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 吉田 真